

# 足利風 -ashikaga-fu

2022  
4月号  
Vol.79



画：中山キッコ

## 足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00~19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail [info@shimin-act.jp](mailto:info@shimin-act.jp)

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



## ☆ ご案内 ☆

- \* 特集!  
「咲く桜、散る桜」
- \* TOPICS  
「若者たちのまちづくり」  
大盛況
- \* 私のボランティアことはじめ  
「足利上水道敷設と  
織物業との関わり」
- \* サークル紹介  
「足利リビルドの会」  
バージョンアップ
- \* INFORMATION

## \* 特集！ \*

### 「咲く桜、散る桜」

愛は数や量ではない、とマザー・テレサは言う。4歳の少年が小さなビンに入った砂糖を彼女のところに持ってきたことがある。少年が何日間か砂糖を食べずに貯めたものだ。たとえ1ビンでも、たとえ小さな行為でも、テレサ流に言えばそこには“痛い愛”がある。200人ものが道端に倒れている都市は貧しい。豊かな都と言われる東京には、さすが行き倒れの人はいない。しかし、二百人の行き倒れに手を差し伸べる社会と、たった一人の行き倒れを無視し、ほうっておく社会と、はたしてどちらが貧しいか？ 彼女はそう問いかけている。七十歳、1メートル50センチそこそこの小柄な婦人はカネも無く、資産も無い。自分の持ち物といえば、2枚のサリーと、それを洗うバケツと、粗末なカーディガンと、手作りの布袋と・・・それだけだ。三十余年、彼女は“なくても



与える”生活が続け、“あっても与えない”者への無言の抗議を続けてきた。～と、国際障害者年（1981）に初来日したマザー・テレサを、辰濃和男が天声人語で書いた。私もその時に初めてマザー・テレサと逢った。

「マザー・テレサの瞳」という詩を書いた茨木のり子に“さくら”という美しい詩がある。～ことしも生きて/さくらを見ている・・・あでやかとも妖しとも不気味とも/捉えかねる花のいろ/さくらふぶきの下をふらりと歩けば/一瞬/名僧のごとくにわかるのです/死こそ常態/生はいとしき蜃気楼と～

この“さくら”の詩にも、戦争を体験した詩人の痛切な思いが響いているのが感じられる。～私が一番きれいだったとき/だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった/男たちは拳士の礼しか知らなくて/きれいな眼差だけを残し皆発っていった・・・（茨木のり子「私が一番きれいだったとき」）～桜の花のような散り際の見事さを讃えられて、戦争に散っていった男たち、その男たちをただ見送るしかなかった女たちの痛切な思いが“さくら”の詩にも託されている。

(M生)

## \* TOPICS \*

### 「若者たちのまちづくり“大盛況”」

令和4年1月20日（木）夜の足利市民活動センターは、全国的なファンの多い広瀬隆人先生をお迎えしての「ボランティア NPO コーディネーター養成講座」に意欲的な青年たちが集まり、刺激的な集いとなった。多様な活動事例が披露され、青年団活動に結集する全国の若者たちの熱気が会場にも伝わり、熱い質疑応答も交わされ、開催趣旨である“若者のフレッシュな感性を活かしたまちづくり”そのものの雰囲気醸し出された。参加者の再会を約して散会となった。市民活動センターから新しい“まちづくり”が始まる予感がした。

## \*私のボランティアことはじめ\*

### 「足利上水道敷設と織物業との関わり」

北村 隆

足利の上水道敷設による給水は、足利が市制に移行してから遅れること十年の1931（昭和6）年でした。足利市の近代化遺産を考える上で上水道の敷設を概観して、それと足利織物業との関係に注目することは大変意義あることと考えます。

1917（大正6）年に、染色業者が多数集積している地区の住民から飲料水不良の訴えが出ました。これが発端となり、上水道敷設の検討が始まりました。それまでは飲料水も井戸水でした。

1925（大正14）年2月に内務省東京衛生試験所から「水源予定地の水が飲料水として適合する旨」の報告が届きました。これを受けて1928（昭和3）年に我が国の近代水道史を代表する著名な技術者である米元晋一氏が足利市水道顧問技師に就任しました。翌1929（昭和4）年の5月に工事が始まり、1930（昭和5）年の12月に竣工しました。そして翌1931（昭和6）年の4月、遂に待望の給水が開始されました。

飲料水不良の訴えから始まり給水開始までの14年間は、足利銘仙（模様銘仙）が創作される1919（大正8）年から足利本銘仙が生産量で全国一位になる1938（昭和13）年迄の19年間と、大方は重なります。足利の織物生産において、工場制機械工業化が進展した時期とも概ね一致します。

日本の上水道敷設の主目的は、伝染病の防止や都市衛生・生活環境の改善です。しかし、明治時代の二度の大火で火事の恐ろしさを知っていた足利織物業者は、工場や製品を火災から守ることに真剣でした。上水道給水目的の一つがそれであったことは明瞭に浮かび上がり、想像もできます。火災報知機の設置が東京、函館に続く3番目の早い時期であったことから大きく頷くことができます。

（足利大学の福島二郎氏他2名による研究論文『足利市における近代水道の敷設過程に関する一考察』を大いに参考にさせていただきました。記して深謝申し上げます。）

## \*サークル紹介\*

### ★「足利リビルドの会」バージョンアップ！！

「足利を元気にしたい」、「足利市の歴史遺産を活用し喧伝したい」、「足利を誇りに思う心を育てたい」との願いを持つ者たちの集まりです。町おこしの一環として、歴史博物館の創設を行政にお願いし、市民運動として栃木県や国の文化庁を動かしたいと運動しています。足利は中世史に不滅の業績を残しております。北関東で住みたい地方都市の第二位に選ばれました。観光客数は5百万人を超えております。市制100周年記念を契機に一層の市民力を発揮しましょう！

代表：清水弘一



## \* INFORMATION \*

(※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。)

### ☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。  
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、  
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和4年 4月15日(金) 14:00～16:00

\*本 : 「モモ」(ミヒヤエル・エンデ)

\*案内人: 石川 博右 さん

\*ひとこと: “ミヒヤエル・エンデの「モモ」は、時間がテーマです。時間泥棒たちに盗まれた人間の時間を取り戻し、街の人たちに返してあげるまでの冒険を描いた物語で、世界中の子どもたちに親しまれています。でも同時に、エンデは、大人たちへの「時は金なり」の裏側にある深いメッセージも、ファンタジー物語にして見せているのです。子どもから大人まで楽しませてくれる「モモ」を、ぜひ一緒に!”

★令和4年 5月20日(金) 14:00～16:00

\*本 : 「クマともりとひと」(森山まり子)

\*案内人: 北村 隆 さん

\*ひとこと: “こんこんと水が湧き出る森が消える時、すべての産業・都市が消える・・・。私たちの命は、森に支えられています。日本を自然保護大国に! でなければ、21世紀は生きられません。熊の棲む豊かな森を次世代へ・・・と、いう趣旨で、私たちは「日本くま森協会」を誕生させたのです! ...そんな熱意溢れる本と一緒に読んでみませんか。”

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

### ☆企画展 (交流コーナー)

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| * 4月 4日(月) ~ 4月14日(木) | パステルフレンズ展   |
| * 4月19日(火) ~ 4月28日(木) | みんなの竹工芸展    |
| * 5月 2日(月) ~ 5月19日(木) | 足利リビルドの会展   |
| * 5月23日(月) ~ 6月 2日(木) | 足利のフリーペーパー展 |

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで  
(土・日・祝日・4/18・5/16は休館日)

### ☆相談室&講座

\*相談室 = 毎月第2・第4水曜 14:00～16:00

\*講座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

### 編集後記

暖かくなり、散歩が気持ちのいい陽気になりましたね。私も愛犬がいたころは義務感で毎日散歩をしていましたが、今に想えば愛犬が私の健康ため付き合ってくれていたんだと思います。愛犬が亡くなり数年、「健康は足から・・・」やっぱり歩かなきゃなあ～と思う毎日です。(しおぱん)